館高同窓会報
第16号

# 憩いの《万葉植物園》

道を館林高校の方へ曲がると、かつて通学していた時と同様に通学路を覆い隠すように成長した桜並木に圧倒される。正門に向けて進んでいくと、懐かしい万葉植物園が歴史の重みをしっかりと受け止めているかのように、静かにそこにあった。それは、まるで別世界のようであった。

現在の万葉植物園（平成26年8月撮影）

「万葉植物園」、それは「万葉集の歌に詠みこまれている植物を一つの所に集めて造った植物園」である。館林高校が万葉植物園を造ることになった直接の動機は、教育課程の改訂で一年生の農業実習がなくなり、学校農場（地積約一〇〇〇平方米（約三〇三坪）が不用になったことだった。荒廃し利用価値もなくなった跡地に着目したのが、当時の故笠原治久校長である。その具体化に向けて生物担当の故高野均先生、国語担当の半田雅男先生が中心になって、群馬県下でも珍しい万葉植物園を造る事になった。

故 高野均先生
（昭21～40在職）

半田雅男先生
（昭26～37在職）

昭和三十二年造園工事が始まった。百五十種という植物は高野先生を中心に当時の生物部員が板倉沼、城沼等に舟を漕いでフトイ（大蘭草）、ヒシ、ジュンサイなどを採集した。またリヤカーで寄贈の植物をいただきに回ったり、学校の西山でネブを掘ったり、植物目録を片手に付近の野山を探し歩いたりして採集したものである。集めた植物を植え込み、翌三十三年春までには植栽予定の約半数が移植された。

一本一本の植物に植物名とそれを詠んだ歌の歌人の名を書いた小さな立て札を立てた。昭和三十三年夏に「万葉植物園」の体裁が整って内外に披露された。全国でもその例を見ない珍しい植物園として新聞に報道されたり、NHKでも全国放送されるなど一大センセーションを巻き起こしたのである。その後、たびたび改修整備がされ、また平成八年には「大賀ハス」の池が設置された。

見事に咲いた大賀ハス（平成26年7月撮影）

万葉植物園の誕生には多くの苦難があった。当時の高野均先生は三十三年度の生徒会誌に「様々な性質を持った植物を一律に同じ処に生育させることが、不自然か、（中略）植物の管理が思うようにいかないで随分手を焼いた事がある。夏になると雑草が繁茂し、見る間に雑草の山となる。万葉植物かどうか判別出来ないまでになる。」とその苦労を書き残している。また半田雅男先生はその四年後の同誌に「造園は、学内の職員生徒挙げての協力と、とりわけ校長の熱心な支援を受けて高野先生と私の二人が主として、その任に当たった。予算・設計・採集・管理・研究等々にかなりの苦心が払われた。万葉植物園の造成の趣旨は、より豊潤な環境の中に学園生活を営みながら、知らず知らず植物を背景とした万葉の自然に親しませようとする教育的配慮から計画されたものである。」と語っている。

当時、学校農地を万葉植物園にという発想は奇抜なものであったに違いない。高野先生は三十年後に「無謀とも言える費用を拠出し、完成を期した。教育に対する遠大な構想を持っていた。校長の着想の偉大さ、当時全国でもその例を見ない企画であった。」と振り返っている。

多くの卒業生の思い出を秘めた万葉植物園、昔と変わらない様子できれいに整備され、多くの植物が植えられている。今後も万葉植物園が学習の場としてはもちろん、生徒たちの憩いの場として永く親しまれることを期待したい。

館林高校70年の歩みより（撮影 昭和33年当時）

# 我ら誠実に生きんとす

同窓会長
前山 秀樹

私が同窓会長の重責を担って、今年で三年が経過致しました。この間、何とか無事に過ごすことが出来ましたのは、学校長はじめ、本部事務局の皆さん、同窓会本部役員、各支部長さん、そして多くの会員の方々に支えられてのことと感謝致しております。紙上をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、本校の校歌三番の歌詞に、「さもあらばあれ世の相、我ら誠実に生きんとす。」というフレーズがあります。私は、この校歌が生まれた時に三年生でした。昭和36年のことでした。当時の世相は東京オリンピックを三年後に控え、日本の高度成長の足音がひたひたと聞こえ始めた頃でした。若い力がみなぎり、新しい時代への期待に満ちた時代でもありました。そのような中でも、世の風潮に染まらずに、自らの真実の道を誠実に歩もうと呼びかけるこの歌詞に、私たちは理想の生き方を夢見たものでした。同じく三番中にある、質実剛健、伝統という、どちらかというと硬派の生き方も私たちを魅了したもののひとつでした。しかしこれは、戦前の教育の中にあった気骨のようなものへの憧れでもありましたが、当時は、これが男子校と言うものだと自分なりに納得しておりました。

その後やがて年齢を重ね、様々な経験や挫折の後に、世の風潮を「さもあらばあれ」という風に軽視できずに、現実に目を向けざるを得なくなるのですが、この歌詞に触れるたびにあの頃の高揚感が蘇えってきます。今時代の風潮は、あの頃よりもずっと複雑さと深刻さを増してきているような気がします。時代の相（すがた）を冷静に見つめ、誠実に真実を求める生き方を、今の生徒諸君にはぜひ求めて頂きたいと思うこの頃です。

# 思い出の松林

校長
栗田　裕

正門前の桜並木とともに本校の景観を象徴するもの、しかも創立から生き続けてきた唯一の存在と言えば、繁茂する松林であります。学校創建にあわせ防風林として植えられた僅か50cmの小松は、今や20mの巨樹となり、切り株の上に90余の年輪が渦巻いています。しかし、この寒松平丈たる松林も青松落色の危機に直面しています。

当初の植林本数は不明ですが、後の記録から松枯れの深刻さを窺い知ることができます。この松枯れの原因を害虫（マダラカミキリ）と考え、薬剤注入で対処してきましたが、最近では酸性雨による土壌悪化を原因と考えられます。

校史によると、昭和52年から翌年にかけ、保護者や教職員、その後生徒も加わり、下草や雑木で覆われていた松林を生徒の教育活動及び憩いの場として整備したとあります。「昔を偲ぶ大谷原・八州の野の大谷原」の歴史を継承し、「微妙なる松風、静かにかよふ」本校創立の大正の松林を、桜並木とともに本校のシンボルとして永く守っていかねばなりません。そのためにも、創立百周年事業の一環として、平成の松林整備を進めて頂ければと思います。今後とも同窓会の皆様方の温かい支援をお願い致します。

| 調査年 | 薬剤処理数 | 薬剤未処理数 | 立枯れ本数 | 松の総本数 |
|---|---|---|---|---|
| 1921（大正10）年 | | | | |
| 1985（昭和60）年 | 0 | 338 | | 338 |
| 1998（平成10）年 | 0 | 294 | | 294 |
| 2003（平成15）年 | 0 | 272 | | 272 |
| 2011（平成23）年 | 0 | 267 | | 267 |
| 2012（平成24）年 | 49 | 191 | | 240 |
| 2013（平成25）年 | 75 | 165 | | 240 |
| 2014（平成26）年 | 98 | 70 | 53 | 221 |

赤松の本数（校庭西側）

# 先輩、在校生へ大いに語る！

## 平成25・26年度 開校記念講演会

昨年11月13日（水）本校体育館において、平成26年度開校記念式典が挙行されました。記念講演会では、講師として翻訳家の齋藤紘一先生（昭37年卒）を招き、「これまでの五十年。これからの五十年。」という演題で講演を頂きました。齋藤先生は、本校を卒業後、東京大学理科一類に進学し、旧通商産業省入省を経て、科学技術庁宇宙開発課長や環境庁官房審議官などを歴任し、現在はロシア語の翻訳家として活躍しています。

講演の最後に「若いうちにいろいろなことにチャレンジすることが大切である」と、生徒に向け、貴重なアドバイスを頂きました。

また、平成26年度より本来の開校記念日に合わせて5月17日（土）に開催日を変更し、記念式典が行われました。記念講演会では、講師として元国会議員で農林水産大臣を務めた谷津義男先生（昭28年卒）を招き、「決断の時」との演題で講演を頂きました。有明海諫早湾の水門問題、中国との大喧嘩、世界議員連盟でのパレスチナ問題を例に取り、農水相時代に直面した3つの決断について触れ、「決断はおっかない。決断するときは、自分の意志を出すことが重要である。そのためにしっかりとした準備の下、様々な知識や周りの人の意見を活用する」と重き言葉を頂き、生徒たちは普段聞くことのできない話に心を奪われ、熱心に耳を傾けていました。

# 各学年同窓会 各部等の集い 報告

## 同窓会旅行で 鬼怒川温泉へ

昭和52年卒
石井　洋史

私たちの同窓会は、11月に開かれる館高同窓会には毎年大勢集まり、懐かしい話に花を咲かせています。そんな中、同級生で旅行に行こうという話が持ち上がり、学年幹事の本澤貴君のお骨折りで、卒業後37年目に初めて同窓会旅行が実現し、行き先は、途中からも合流しやすいように鬼怒川温泉になりました。

板倉東洋大前駅から東武日光線に乗り、一路鬼怒川温泉へ。まるで修学旅行の乗りで、車窓での楽しい時間はあっという間に過ぎました。現地集合もきめて総勢12人に。久しぶりの再会でしたが、皆が揃うと高校時代の出来事が昨日のように次々と蘇ります。それと同時に卒業後の歩んできた経緯や近況報告と、それぞれが真面目に語り合うなど話は尽きません。多少白髪が増えましたが、みんな昔のやんちゃな笑顔に戻り、酒宴は夜が更けるまで続きました。

またいつか、もっと大勢に声を掛け第二の修学旅行が出来ることを誓い合い、帰途につきました。

## 伝統あるOB会 弁松会

昭和41年卒
今井　敏

母校主催の全国決勝弁論大会が今年も9月20日に開催される。今年で62回となるが、今や全国にこれだけ長く続く大会はなく、全国で最も権威のある大会として、その名を全国に轟かせていると共に、全国の弁論部員たちの一度は壇上に立ちたい、憧れの大会にもなっている。

弁松会は弁論部のOB会として戦後に発足以来、会員同士の交流や伝統ある大会の維持、発展に寄与してきた。設立時のメンバーでもある岩瀬弥市（前同窓会長）さんを会長に、大塚幸雄幹事長が財政面での援助、運営面でのアドバイス、審査員の派遣など学校側との連絡調整を担当し、円滑な連携が出来上がっている。毎年、弁論大会終了後、OBは弁松会の事務

## 母校見学会＆恩師を囲む会

昭和36年商業科卒
町田登志男

春の息吹を感じさせる4月、53年振りに母校での見学会が開催されました。当日は正門へと続く桜並木が満開を迎えており、私達を歓迎するかのように迎えてくれました。

当時の木造校舎は一変され近代的な校舎へと変わっており私達を驚かせてくれました。

集合後は母校出身の先生の案内で校内を見学、懐かしい万葉植物園、そして館高名物の松林、53年の年輪を重ねてきた松林は大きく成長しておりました。広々とした校庭、新しい体育館、当時の体育館も雄姿を見せて残っておりました。

見学を終えた後は母校教室で53年前へタイムスリップしたホームルームを開催。

教室へ入ると机上にはそれぞれ一人ひとりに宛てた「恩師からの手紙」が置かれており教え子達は大感激。最後の2行には教え子達それぞれに当時の思い出が添えられており、恩師の教え子達を思う優しさを改めて痛感した瞬間となりました。

そして恩師を教壇へ。恩師から出席を取っていただき教え子達は起立、礼、懐かしい教室で恩師との53年振りの対面を味わうことができました。

その後は恩師と教え子達の語らいの場になりました。

最後は参加者全員で「ふるさと」局でもある料亭「増喜」に集合し交流を深めている。元農林大臣の谷津義男氏、館林市長の安藤岡一雄氏を始め多くの会員が集い、和やかな中にも議論の活発な宴（やはり弁論部）が繰り広げられる。

戦後六十数年、新制高校の歴史と共に歩んできた弁松会。今後も弁論を通して一致協力し、母校の発展に寄与したいと考えている。

「母校の応援歌」「旧校歌」をみんなで合唱。素晴らしいハーモニーが響く中、見学会を終了。その後は場所を移しての懇親会、楽しく懐かしい語らいの中、春爛漫の一日を終え、又の再会を誓い合っての散会となりました。

母校教室で記念写真

校歌を全員で合唱

# 支部だより

## 明和支部

### 14年の歩み

支部長　山岸　勝美

明和支部は今年で14周年を迎える。ついこの間のようであり長い歴史でもある。発会に携わった一人として、感慨深いものがある。前本部同窓会長岩瀬弥市氏と当時の明和町長斎藤憲氏の懇談の中強く要請され発会に向かったのである。近隣の町に支部がある事は存じていたが、発会には遠かった。発会の人選、他支部の資料集め、卒年が違うと誰が同窓だかわからない。名簿から在住の氏名を抜き出す作業、大変であった。今では14年の歴史で役員会で合えば推定の友のようであるが、皆初顔合わせであった。しかし館高魂で作業が進み、初代支部長吉永五三次（22年卒）氏が就任。ご苦労様でしたという他ない。時過ぎ去る事14年当時若輩の私と発起人として尽力した事務局長関口久（27年卒）を除き初代支部長副支部長坂上貞雄（23年卒）田口章太（25年卒）三氏は、発会の歴史を残し別世界へと旅立った。瞑みるに時の流れとその刹那をしみじみと感じる。現在支部は順調に推移している。総会時の講演会、塩谷正久（38年卒）氏の「川俣宿」は協賛を得た。パークゴルフ会、同窓会ゴルフコンペも参加を増している。今後他事業にも少しずつ取り組み、皆健康で再会し、旧交を深める明和支部として歴史を刻んで行きたい。

## 東京同窓会

### 東京同窓会ブログ開設

会長　鈴木　昇

昨年十月の総会で、大関清道会長（29年卒）が勇退し、新たに鈴木（35年卒）が選任されました。当同窓会は年四回の行事の他二月に会報を発行しております。即ち、春の観桜懇親会、夏の納涼懇親会、秋のゴルフ会、そして十月総会兼講演会では日本ビストンリング㈱技監の小野田元伸氏（45年卒）に「世界の環境問題と自動車の行方」と時機を得た題で講演戴き、活発な質疑応答がなされ有益な会となりました。他に県内他校東京同窓会との交流も積極的に行っております。前橋、高崎、そして一昨年から始まった太田、桐生との東毛三校会も回を重ねるにつれ、親睦が深まっております。今年は六月に太田幹事で「肺結核と肺がん治療の現代」との基調講演が行われ、オブザーバーとして足利も加わり盛会な交流会となりました。

## 邑楽支部

### 結成十周年　新たな歩みへ

支部長　横山　美樹

ほんの数年前までは、十年ひと昔と言っておりましたが、最近の社会の動きや進歩を考えると格段に早まっている感じがします。

我が邑楽町支部も先輩方の並々ならぬご尽力により結成後、早くも十周年目を迎え、新たな一歩をまた若い人達の参加が鈍化していることから、昨年から「館林高校東京同窓会」のブログを立ち上げました。まだ変則的ですが、活動情況を発信し参加を呼びかけております。本校も同窓会ブログの更なる充実を期待しております。本校のイメージアップに繋がると確信しております。

## 板倉支部

### 輝ける同窓生

支部長　鈴木　攻

支部総会及び懇親会を2月11日大勢の御来賓・各地区支部長・会員22名の参加者で開催致しました。例年の通り和気藹々あっという間に時が経ってしまいました。

さて、当支部では二つの慶事がありました。平成25年秋の叙勲で前町長の針ケ谷照夫（35年卒）さんが、旭日小綬章を受章し、平成26年春の叙勲で町体育協会長の宮田明（37年卒）さんが、瑞宝小綬章を受章しました。針ケ谷さんは、24年に及ぶ長い間町長として町の発展に多大な貢献をされました。中でも板倉ニュータウン建設事業を促進すると共に、東武日光線板倉東洋大前駅の開業、東洋大学板倉キャンパスの開学と町づくりの進展に手腕を発揮されました。とりわけその功績が顕著なのは、昔から水害に悩まされてきた板倉町の総合的な治水対策に取り組み、邑楽東部第一及び第二排水機場、谷田川排水機場を完成させ水害のない安全な町づくりに大変な寄与をされたことです。お疲れさまでした。

宮田明さんは、埼玉県教育委員会、埼玉県立未動岡高校長、埼玉大学教授などの要職を歴任され、長年に亘り学校教育及び教育行政に貢献された功績が顕著であると認められ、今回の受章となりました。

お二方とも同窓の誇りです。

踏み出そうとしています。

今年度の総会・懇親会は五月二十四日に開催いたしました。多数の会員の出席をいただき盛会に行われました。学校からは桑子事務長さんにご出席いただき、学校の現況や生徒の活躍等のお話をいただきました。また、太田、板倉、明和、千代田、大泉（館泉会）の各支部長さんからも活動の現況をお話いただき、支部としても大変参考になりました。

邑楽町支部の活動内容は、会員名簿の作成、会報の発行、ゴルフ大会、グラウンドゴルフ大会、囲碁将棋大会、懇親会等を発足以来継承し実施しております。

会員は五月の総会時点で三百十七名であります。一区切りを迎え、地区幹事さんのご協力をいただきながら、新たな会員の参加促進を図っていきたいと思います。本部をはじめ、各支部よりご指導ご助言をよろしくお願いいたします。

# 恩師登場!!

## 館林高校が原点

川島　貴男先生
（昭和48～54年　在職　英語）

館林高校在職当時、同僚の先生と親しい生徒、卒業生を相次いで致名亡くしました。それは教員一年生として出発したばかりの私にとって心を重くする大変な出来事でした。それでも、私が退職後の講師もきめ、四十数年の教職生活を何とか無事に送ることができたのは、当時一緒に前途に明るい道を見失わないよう私を支え導いてくれた、館高の先生方と生徒諸君のおかげです。

教員生活を高校の恩師山口澄夫先生のもとで始められたことは大きな幸運であり、さらに二十代半ばでカリフォルニアに遊学するレスリングチームの引率者に加わる機会に恵まれたことで、後に国際交流を軸とした国際理解や外国語指導を私の中心的な仕事とすることができました。

館林高校は私の教員人生と結婚生活のスタート地点であり、新しい多くの仲間との出会いの場所であり、人間としてこれからしっかり生きていこうという気持ちを育ててくれた懐かしい心の故郷です。

## 新採用時代の思い出

尾藤　聡先生
（昭和55～60年　在職　国語）

昭和五十四年の三月下旬、私は館林高校のY校長に呼ばれ、駅前の喫茶店で最後の面接を受け、翌月の一日から正教員として館林高校に赴任しました。同期の新採用教諭は五名もおり、先輩方に相当のご迷惑をおかけしたものと冷汗の出る思いです。職員会議でも若輩であるにもかかわらず発言し、生意気な新人達であると眉をひそめられたものと反省しています。そんな私達を寛大に受け止めてくださった諸先輩や生徒諸君に対して、今本当に感謝しています。

さて、私の五年間の館高時代、最も力を入れて取り組んだことは生徒会活動と吹奏楽部の活動であると考えています。実は生徒の皆さんから教わることばかりで、どっちが先生か分からない状態であり、全く恥ずかしい限りです。先輩の鈴木先生に助けていただくことが多く、生徒から「ナマズの子分」と言われたことを覚えています。その鈴木先生の文字通りの子分として、弁論大会の運営に携われたことは、本当によい勉強になりました。仕事のやり方の基礎を身体で覚えられたのは幸運でした。館高に育ててもらって今があるように思います。

（現・太田高校教諭）

## 60年代に大いに躍進…

岡田　孝夫先生
（昭和61～平成3年　在職　音楽）

昭和61年4月から5年間、館林高校にお世話になりました。当時、伝統あるレスリング部の活躍は、群を抜いていたのを思い出しています。オリンピック金メダリストの高田裕司先生の指導のもと、名声を博しておりました。

また、漕艇部も全国レベルの好成績をあげ、囲碁将棋部、生物部、そして弁論部等大活躍していた時代でもありました。その中で、長い歴史を持つ商業科の閉科は、一抹の寂しさでありました。

進路面・学力面では「東毛の雄」として、地の利を得て学力を付けられる好条件であったと考えていたのですが、東京に近いということに加え、館林という土地柄ならか、生徒自身のんびりムードであったとも言えた時代でした。

そのことから昭和60年代は、進路指導の充実が図られ、学力を高い水準に押しあがることができた年代でした。その結果、進路実績は、現役合格者県下一になったと、その当時は言われておりました。私立大学への現役合格者も、数年間でしたが県下においてトップであったことと自負しています。その後の国公立大学への進学人数は、60人から70人の実績を出した平成十年代に繋がったと考えられます。

昭和60年代の改革は、カリキュラムを大幅に変えたこと、習熟度別授業の導入や早期の進路決定および受験体制への早めの取り組みがありました。特に、受験科目の核となる英語と数学を中心に、学力向上に取り組んだ結果だと思います。私自身、躍進の原動力の一員として取り組めたことに感謝しております。今後の同窓会の御発展を祈念します。

館林高校の一層のご発展と、職員、生徒、同窓生の皆様のご健勝を願い、感謝とともに筆を置かせていただきます。

### 平成26年度同窓会本部役員

**名誉会長**　岩瀬　弥市　25年卒
**参与**　矢口　昇　25年卒
谷津　義男　28年卒
松本　勲司　38年卒
安藤岡一雄　41年卒
**顧問**　栗田　裕　校長
**会長**　前山　秀樹　37年卒
**副会長**　小篠　泰男　26年卒
山崎　稔　32年卒
大塚　幸雄　35年卒
河本　榮一　36年卒
小嶋洋次郎　36年卒
鈴木　攻　37年卒
大鷹　光雄　38年卒
山岸　勝美　38年卒
遠藤　和昭　42年卒
金子　重雄　44年卒
岩瀬　志郎　49年卒
斉藤　純一　52年卒
上田　裕信　教諭／全
長谷川　充　教諭／定
**書記**　野村　博久　43年卒
源山　和弘　教諭／全
**会計**　藤倉　和夫　44年卒
桑子　昭夫　事務長
**監事**　飯塚　好美　42年卒
義部　己行　47年卒
小巻　行雄　47年卒

**同窓会支部代表**
東京同窓会会長　鈴木　昇　35年卒
板倉支部長　鈴木　攻　37年卒
太田支部長　大杉　幸一　38年卒
栃木県南部　稲村　一男　43年卒
千代田支部長　荒井　幸夫　41年卒
明和支部長　山岸　勝美　38年卒
田染町支部長　横山　美樹　43年卒
足利支部長　小嶋洋次郎　36年卒
館林支部長　遠藤　和昭　42年卒

# 懐かしいOB登場

## 弁護士になって

37年卒
田中　晴男

私は高校入学と同時に弁論部に入った。そして、三年間の弁論部生活の中で、弁護士の仕事がどのようなものであるのかわからないまま、将来弁護士になるとの決意を固めた。

私は昭和五十年四月東京の下町で弁護士としての第一歩を踏み出すことができた。そして、私は迷うことなく労弁の道を選び、労働者・社会的弱者の人達に少しでも役に立つことが出来ればと思い東奔西走をした。弁護士の生活は闘いである。闘いに勝つためには、知力・気力・体力が必要である。寝る間を惜しんで働いた。しかし、私は昭和五十五年家庭の事情で東京から静岡に転居することになった。静岡に移ってからの弁護士生活は、大きく変った。幸い、県の保証協会や信用金庫、自治体の顧問等に就任することが出来、扱う事件が東京の時とは質的のものになった。しかしながら、私は、弁護士としてどのような事件を扱うにしろ、手を抜くことなく、懸命の努力をした。

それは、何かにつけ、高校で知り合った友人、知人の顔が浮かび、誰れかがいつも初心を忘れるなと言ってくれているようであったからである。

## 「利根川新橋市民の会」の会長として

42年卒
福田　美世

私の住む千代田町には、国道・鉄道がなく不便で、子供たちの進学や就職にも影響が出ています。このような中、私はテレビで聖路加国際病院名誉院長の日野原先生が仰った「大人になったら人のために使うのが命」という言葉を聞き深い感銘を受け、地域発展に、と思い、利根川新橋市民の会に入会しました。

両毛地域は工業が盛んで、その製品を輸送するトラック、通勤する車が多い地域でありますが、利根川に架かる橋梁は三本で、渡良瀬川の十本の橋に比べ極端に不足し、慢性的な交通混雑を招いております。また、千代田町に大型商業施設が開業し、更に拍車をかけています。そのため市民の会では刀水橋と利根大堰の間に、新橋及び道路を建設し、三橋の混雑緩和のみならず、両毛地域の経済・文化・スポーツの交流を盛んにし、地域の人々の生活向上をめざす運動を行っています。その成果が多くの方の行動のおかげで、平成21年には利根川新橋が県土整備プランに織り込まれる形で現れました。

これからも地域の発展のため、将来を担う子供たちのため頑張っていきたいと思っています。

## ふるさと

46年卒
福地　豊樹

父も館林高校の同窓生である。私の進路を決める段階で父は自分の母校にと言った。この地域は足利や熊谷、さらに太田へと進学先を向け、優秀な人材が流れているといつも嘆いていた。その父もその後、母校の教壇に立ち、今はすでに亡い。私は館林を離れたが、同じ県内の教員養成大学に勤める。館林高校出身者も多くはないが見つけると嬉しくなって声をかける。

私の研究分野はスポーツ史、そんなものがあるのかと不思議に思うかも知れないが、学問分野は細分化されており、りっぱに一つのジャンルをつくりあげている。分野は少し異なるが、ヨーロッパ中世史の阿部謹也さんが大好きだ。高校生向けの著書に『自分のなかに歴史をよむ』（筑摩書房）がある。なぜ勉強に立ち向かったのか、その葛藤を描いた記述は胸に迫るものがある。ぜひ一読を薦めたい。

高校時代、勉強に様々な活動に興味いっぱいの時期と思う。自分の目標を探すことは容易ではない。迷いながらも、ゴールが見えないかも知れないが、そのことを怠るべきではない。結果のみを云々することがすべてではない。

楽観論者だった父が、私に残したものが何であったのか、今、とても気になっている。

## 自分の身体は自分で守る

52年卒
寳寺　秀直

現在フィットネス施設の経営・トレーナーを養成。テレビ・新聞等各メディアでの解説者です。

館高陸上競技部へ、2年時に幅跳びの当時県記録保持者でOBの小酒先生と運命の出会いがあり、四百m・八百m・リレーで県大会優勝、国体・インターハイ等出場。

法政大学へ進学。四百m・リレーで六大学、日本陸連主催大会等で優勝。短距離主任・副主将。

セントラルスポーツ入社、研究所を統括し、運動処方等の開発。当時「筋肉をつけると水に沈む」と訴った認識の中、運動力学を基に斬新な筋力トレで競泳十六年ぶりにソウル五輪で鈴木大地が金メダル獲得。電気抵抗と体脂肪の相関を体力医学会にて日本初発表。

独立後にタニタ体脂肪計開発時コンサルや法政大学アカデミー構想等受託。茨城大学・非常勤講師として社会体育の必要性を説く。

著書のBMストレッチ等、ベストセラー多数。五冊アマゾン一位中国・韓国など海外でも多数翻訳・出版。五輪選手から神取忍三、水野裕子さんら芸能人多数指導。

少子超高齢社会ですが・・・・みなさぁん！実は、百歳になっても筋肉は発達しますよぉ!!

# 私のいきいきライフ
## ―たのしむ―

## 郷土実業史の真意

45年卒　小堀　直人

明治六年発行「銀行簿記精法」は我国最初の複式簿記書である。明治11年11月県内最初に創立開業した館林第四十国立銀行に於いて複式簿記が実践的課題に相応されていた。郷土の実業史は研究者が皆無で殆んど未解明であることが郷土史へ踏み込んだ所以である。

富岡製糸場の世界文化遺産登録の話題でマスコミを賑わせている昨今であるが、当地上毛モスリンも群馬県指定重要文化財である。明治中期日本製粉・館林製粉（後の日清製粉）を設立した商人達も館林人であった。

明治維新後、郷土の先人達により幾多の苦難試練を乗り越え創造された実業界は、その時代その時の文化を幾世代にも亘り引き継ぎ今日の館林の実業界が存在するという認識が大切である。

郷土が他地域の実業界と比較し立ち遅れ、不満を感ずるなら、それは我々世代が甘んじて享受しなければならない。少なくとも先人の活躍苦悩を感じとり後世の実業家精神の高揚に寄与すべきである。

実業郷土史究明の一層の深化と整備されざる理論体系を構築することが切実な責務であることを自覚せずにはいられない。

## 東京散歩

42年卒　相川　敏雄

学生時代は都内に住んでいたのだが、その頃は赤貧で名所を訪ねる余裕はなかった。しかし、定年退職を機に日帰りの東京散歩を始めた。以来五年が経ち、月に一度のペースで今年50回目を迎えている。

当初、池波正太郎の時代小説に出てくる本所、深川、浅草などを訪ね、小説に合わせて当時の面影を探す。やがて六義園、後楽園などの大名庭園跡を巡る。それが一巡してからは、井の頭公園、深大寺など郊外を散策した。

最近は、マーチエキュート神田万世橋や虎ノ門ヒルズなどの新名所に行き、東京の活気に当たって元気をもらっている。

外国人に道を尋ねられたり、道に迷っていると親切な女性が教えてくれたりと、結構、いろいろな人との出会いがあるのも楽しい。

猛暑や酷寒、時には豪雨の時もあるが、そういう時は予定を変えて、しゃれた喫茶店などで時間をつぶす。

次はどこに行こうかと、地図や路線図などを眺めている時間も楽しいものだ。

## 退廃に抗する手段

49年卒　太田　丈夫

私にとって「絵画」を制作する事は、過去の（20世紀の）先人の業績を踏まえた、次の（現代の）問題と答えを提示することである。

では20世紀モダニズム美術とは何であったか。突き詰めて言えば「何も描かれていない画面」が、描かれた画面より美しいかもしれない、という事の発見であったと考えている。

しかし近年は「何も描かれていない画面への畏怖」を忘れている事が、ある種の弛緩や退廃的な汚い画面を生んでいるように思う。

空虚を充填する事への欲求は、お祭りのどんちゃん騒ぎ、遊興や娯楽としてひっしり描き込まれた絵を生む。それに対して昔から東西を問わず真正の芸術は、死や憂愁を説ってきた。

平和にあって退廃に抗する精神性を維持しなくては、その維持も不可能であろう。そのために描く事を積層してゆく事、充填するのではなく、形と形の間、層と層の間に空虚を維持しながら描く事。

それは空虚な画面の周囲を旋回してきた20世紀美術を踏まえつつ重層的な画面を維持する為の精神の張りを要する困難な仕事なのである。

## 【同窓会ゴルフコンペ】開催される

第14回館林高校同窓会懇親ゴルフ大会が5月14日板倉ゴルフ場で開催されました。

99名の参加者26組の組合せができましたがプレーしたのは86名であります。毎回四、五名の体調不良などで欠場者はいますが今回13名のキャンセルが出ました。どういうことなのでしょうか？…準備が整ったあとドタキャンとは困ったものです。3名の方から会費が納入されました。

成績は次の通りです。（敬称略）

**優　勝**　浅見喜一郎（館林）74
**準優勝**　金子　一（館林）72.5
**第三位**　清水　廣（館林）72.4
**第四位**　服部　覚（館林）72.4
**第五位**　飯塚　好美（館林）70.6
**ベスグロ**　小巻　行雄（館林）70.6

**○歴代優勝者**

第一回　大隅　允雄（館林）
第二回　三田　成男（東京）
第三回　赤坂　宏（館林）
第四回　小久保　清（千代田）
第五回　荒井　昭（東京）
第六回　相澤　繁光（館林）
第七回　高澤　時雄（太田）
第八回　相澤　健志（東京）
第九回　亀山　進一（館林）
第十回　廣井　栄作（館林）
第十一回　野村　健一（館林）
第十二回　亀山　進一（館林）
第十三回　山田　中（館林）

**●来年のゴルフコンペ●**
期日　平成27年5月13日（水）
会場　板倉ゴルフ場

※参加申し込みは同窓会事務局へご連絡下さい。案内状をお送りします。

ゴルフ会幹事　大塚幸雄

# 館高Now

## 第33回50km強歩大会 ～自己との戦い～

去る4月26日(土)、館高恒例の50km強歩大会が開催された。今年で33回を数える今大会は、強歩を通して日常生活における「歩く」ということの意義の重要性を再確認するとともに、忍耐力の養成、気力の充実をはかることを目的に、保護者をはじめ多くの方々に協力をいただき成り立っている。前日の開会式において、伝統の「やるぞ宣言」を気合いを込め、叫んだ瞬間から自己との戦いが始まる。上位入賞を目指す者から完歩を目指す者まで、各々の体力・気力にそった目標を定め、男の子の意気をここに見せてくれるのである。スタートラインに立ったのは強歩Tシャツを身にまとった563人の勇姿。6：30の合図で走り始め、晴天にも恵まれとても清々しい気持ちで歩けたのではないかと感じる。後半には気温の上昇とともにリタイアする生徒の姿も見られたが、自分の限界と十分に戦った表情をしていた。完歩できた生徒は512人、90・9%の完歩率であり、全体的に1、2年生の活躍が目立った大会であった。

〈順位〉

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1位 | 2-4 | 浅野 | 寛人 |
| 2位 | 1-1 | 近藤 | 牧人 |
| 3位 | 2-5 | 広瀬 | 蓮 |
| 4位 | 2-4 | 江川 | 敬亮 |
| 5位 | 1-5 | 堀口 | 友希 |

## ●定時制だより

平成26年3月、12名の生徒が卒業し、定時制課程卒業生の総数は1751名となりました。開校66周年を迎える今年度、17名の新入生を迎え、男子43名、女子14名、総勢57名でスタートしています。生徒たちは昨年と比較しても、落ち着いた雰囲気の中で、学校生活を送っております。

6月2日に開催された開校記念講演会では、栃木定夫先生（昭和51年卒）を講師に迎え、「人との出会いを大切に」との演題で、定時制高校で学んでいた頃の出来事や板倉高校PTA会長を務めていた当時の経験、また現在の農業の状況や課題について、お話を頂きました。仕事をしながら学ぶ事の大変さ、身に起こる様々な出来事。それらを乗り越えられた友達や仲間、家族、先生などの支え、将来に繋がる人々との出会い。生徒たちは先生の話を自分自身に重ね、真剣な表情で熱心に聴き入り、頑張る勇気をもらうとともに高校を卒業して夢を叶えるという決意を新たにしていました。

部活動ではバドミントン部の4年生の坂本君と3年生の鈴木さんが、群馬県代表選手団の一員として、8月18日から21日、小田原アリーナで行われた全国大会に出場しました。昨年全国大会に出場したバスケットボール部は、県予選会二回戦で敗退、来年の全国大会出場に向け、練習に励んでいます。また、卓球部、文芸部も熱心に練習、作品制作に取り組んでいます。

昼間、仕事をして、夕方から4時間の授業、放課後の部活動、生徒たちの頑張りには頭の下がる思いがします。今後とも同窓会諸兄のご理解、ご協力をよろしくお願い致します。

## 進路状況

今年3月の卒業生218名の進路決定状況は、4年制大学180名（国公立大学22名、私立大学158名）、短期大学1名、専門学校22名、就職2名となっています。また、進学努力継続者は12名です。進路決定率は94・4%で昨年度比で5・3%、大学進学決定率が93・8%で5・0%上昇しました。現役で進学したいという気持ちが表れています。

合格率は国公立大学が24・3%（昨年度は22・1%）、私立大学が39・2%（昨年度は34・6%）であり、昨年度よりやや高くなっています。

難関大学としては、東北大学・金沢大学・筑波大学などの国立大学、明治大学・青山学院大学・立教大学・中央大学・法政大学・同志社大学・関西大学・東京理科大学・明治薬科大学・星薬科大学などの私立大学に合格しています。（詳細は本校のホームページをご覧ください。）

現3年生においては数学と理科で、現2年生からは全教科で新教育課程が始まっており、平成27年度の大学入試センター試験からは、入試科目が大幅に変更されます。

同窓会の皆様の期待に応えられるように、また、生徒一人一人の進路目標の達成が図れるように、受験に関する情報を早期に把握し、全教職員で指導をしていきたいと考えています。今後とも、どうぞご支援のほどよろしくお願いいたします。

**国公立大学**（合格者数）

| | |
|---|---|
| 東北大 | 2 |
| 秋田大 | 1 |
| 筑波大 | 1 |
| 宇都宮大 | 1 |
| 群馬大 | 8 |
| 埼玉大 | 3 |
| 金沢大 | 1 |
| 静岡大 | 1 |
| 前橋工科大 | 1 |
| 横浜市立大 | 1 |
| 新潟県立大 | 1 |
| 金沢美術工芸大 | 1 |
| 都留文科大 | 3 |
| 合計 | 25名 |

**私立大学**（合格者数）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 獨協大 | 11 | 法政大 | 5 |
| 青山学院大 | 1 | 星薬大 | 1 |
| 駒澤大 | 10 | 明治大 | 8 |
| 芝浦工業大 | 4 | 明治薬科大 | 3 |
| 専修大 | 11 | 明治学院大 | 5 |
| 大東文化大 | 17 | 立教大 | 2 |
| 中央大 | 6 | 同志社大 | 3 |
| 東京電機大 | 10 | 関西大 | 2 |
| 東京理科大 | 3 | 他 | |
| 東洋大 | 23 | | |
| 日本大 | 26 | 合計 | 423名 |

**進路先状況**（　）内は昨年度

| | | |
|---|---|---|
| 国公立大 | 22 | (22) |
| 私立大 | 158 | (174) |
| 短大 | 1 | (1) |
| 大学校・留学 | 1 | (0) |
| 各種・専門 | 22 | (15) |
| 就職 | 2 | (1) |
| 自営 | 0 | (0) |
| 進学努力継続 | 12 | (26) |
| 合計 | 218 | (239) |
| 進路決定率 | 94.4% | (89.1%) |
| 大学進学達成率 | 93.8% | (88.3%) |

# 館高Now

## 部活動状況

### 【レスリング部】

今年度は、3年生6名・2年生5名・1年生5名の総勢16名でスタートしました。

学校対抗戦では、昨年度末の全国選抜大会で初の決勝戦に進み、悲願の選抜初優勝まであと一歩のところまで来ましたが、残念ながら準優勝という結果でした。インターハイでは、45年ぶりの優勝を目指して、頑張りたいと思います。個人対抗戦でも優勝を狙える位置にいる選手がいますので、自らが考え、勝つための行動を選択できるようにしていきたいと思います。

### 【軟式野球部】

春季大会で準優勝し、26年ぶりに春季関東大会に出場しました。大会を振り返ると、県大会初戦は、前橋高校に二対〇で勝ち、準々決勝は、前橋工業と延長十五回、四対四の引き分け再試合となり、翌日、二対一で勝ちました。準決勝は、第一シードの前橋育英に六対三で勝利させていただきました。決勝は、太田高校に〇対三で敗れて、残念ながら準優勝となりました。しかし、再試合をした関係で、準々決勝から決勝まで、四連戦という不利な状況で生徒は十分に力を発揮し、「男の子の意気」を見せてくれました。

関東大会では、残念ながら初戦で、千葉県優勝校の八千代松陵に六対一で逆転負けをし、三年生は引退となりました。

新チームで臨んだ夏季県大会では、残念ながら準々決勝で、三年生がいる前橋工業に六対八で負けてしまいました。秋季大会は、関東大会を目指し、先輩方の期待に応えられるよう頑張って参ります。

伝統校が消えつつある昨今、全国に館林旋風を巻き起こし、諸先輩方の期待に応えられるよう精進していきたいと思います。

### 【演劇部】

今年度の演劇部は、三年生七名、二年生六名、一年生三名の合計十六名でスタートしました。他校との交流会などに参加する機会では、男子校の演劇部は県内でも貴重な存在だということを実感します。

館林高校の演劇部は、放送部も兼ねているため、幅広く活動をしています。放送部門では、さまざまな大会の朗読やドラマの制作に参加しています。つい先日六月に、NHK杯全国高校放送コンテストの創作テレビドラマ部門に出場しました。

また演劇部門では、毎年東毛地区の高校と演技で競い合います。そのために台本選びから始まって役作り・照明・音響に至るまで部員全員で協力し、話し合って決めていきます。彼らは、自分たちにしかできないひとつの作品を目指しています。

彼らは、演劇を通して自分の内面にあるものを表現しています。私は、それが彼らの成長に繋がることを願っています。そしてこれからも支援を続けていきたいと思います。今後とも皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

## 平成26年度群馬県高等学校総合体育大会結果報告

【レスリング】

学校対抗戦　優勝

個人戦

F50kg　1位　寺田有輝
F55kg　1位　萩本龍
F60kg　1位　佐々木拓海
F66kg　2位　川上直也
F74kg　1位　木村優太
F84kg　2位　田口拓海
F120kg　1位　齋藤隼也
G50kg　1位　吉澤陸依
G55kg　1位　萩本龍
G60kg　1位　佐々木拓海
G66kg　2位　川上直也
G74kg　1位　木村優太
G84kg　2位　齋藤隼也
G120kg　2位　小島朋史
1位　野本州汰
吉澤陸依
（11名関東大会出場）

【サッカー】

2回戦敗退　対高崎北（0－1）

【バレーボール】

ベスト16　対桐生（0－2）

【ソフトテニス】

団体ベスト8　対前橋商業（0－2）

【山岳】

総合8位

【軟式野球】

県大会決勝　対太田（0－3）準優勝
（関東大会出場）
関東大会　1回戦　八千代松陵6－1
敗退

【卓球】

団体2回戦敗退　個人ベスト64

【バスケットボール】

2回戦敗退　対高崎商業（43－93）

【バドミントン】

団体2回戦敗退　対伊勢崎清明（0－2）個人ダブルス・ベスト32

【テニス】

ベスト16　対沼川（0－2）

【空手道】

形の部1回戦敗退　対前橋（0－5）
組み手1回戦敗退　対沼川（0－4）

【陸上競技】

走高跳個人4位（中村）関東大会出場

【剣道】

ベスト16　対前橋商業（0－5）

【水泳】

100mバタフライ　2位　田切祐基
200mバタフライ　2位　田切祐基

【硬式野球】

春季大会　準決勝　桐生第一9－0
敗退
選手権大会　3回戦　中央中等9－6
敗退

【ボート】

関東大会　舵手付クォドルプル6位

# 今年の館高同窓会（総会 親睦会）は11月8日(土)

## ～誘い合ってお出かけください～

300名以上参加する大同窓会になって今年で16回目になります。同級生同士が旧交を温めるもよし、先輩後輩が励まし合うもよし、元気をもらって頑張ろうもよし、誘い合って集いましょう。好評だった「同級生は同一席で」「総会の超スリム化」「同窓生はみんな平等」の精神などは継承して開催します。

代表幹事　昭和56年卒業生たち

昨年の総会

**日時：平成26年11月8日(土)午後5時**

**会場：ジョイハウス(TEL.0276-73-4669)**

○参加券は総会幹事(下記)、本部役員、支部長さんからお求めください。
（参加券は5,000円、事務局にもあります。）

※4時30分から吹奏楽部の生徒による校歌等の演奏がありますので、お早めにお出かけください。

## 平成26年　総会幹事

20年卒　新井　結一　荻野　次雄　増山　芳弘
30年卒　山口　勝巳　河内　和光
31年卒　川生　宏　斎藤　一美
32年卒　岡野　上　石井　俊雄
33年卒　横田十四雄　猪鳴　博　手島　和雄
34年卒　山田　中　須田　勝　長谷川正博
35年卒　大塚　幸雄　増山　磐田
36年卒　宮内　敦夫
37年卒　増田　秀雄　和田　千明　小林　勝吉
38年卒　白井　信義　高橋　徹　初谷　吉敏
39年卒　小宮　稔雄
40年卒　伊藤　良三　横山　哲也
41年卒　神田　静一　須永　理夫
42年卒　遠藤　和昭　飯塚　好美　篠田　明
43年卒　野村　博久　藤森　喜幸　早川　紀正
44年卒　金子　重雄　堀田　達一　大谷　隆一
45年卒　津布久満寛　清沢　哲至　中島　清
46年卒　早川　元久　久保田佑也　馬沢　信幸
47年卒　山岸　雅彦　井出　康弘　金子　博
48年卒　大沢　孝　原　康浩　吉永　敏昭
49年卒　遠藤　敏昭　馬場　改　高岡　敏弘
50年卒　岩沢　敏和　大川　秀嗣　金子　繁
51年卒　小島　奈美　江原　洋正　中村　智宣
52年卒　野村　達之　本沢　真　栗原　隆
53年卒　岩井　雅明　阿部　好弘　田田　幸雄
54年卒　杉田　岩夫　井上　浩明　野木村　崇
55年卒　金子　政雄　鳥田　和美　木村　秀政
56年卒　勝野　秀章　松本　新一
57年卒　加藤　勝也　渡谷　元彦
58年卒　中里　和典　石崎　治　初沢　智幸
60年卒　塩澤　勉　竹井　孝幸

## 事務局より

●総会幹事をご推薦ください。上の総会幹事の欄で、空欄のある学年は補充する方をご推薦いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

●次号の同窓会報を送付希望の方は、会費として千円を、郵便振替でお送り下さい。
口座番号
00520-2-25333
口座名
群馬県立館林高等学校同窓会

●今年度の事務局員は、瀬山、齋藤五澤、細堀です。

## 原稿募集

### 私のいきいきライフ

皆さんが楽しんでやっていることを、ぜひご紹介ください。（特にジャンルは問いません。その面白さ、醍醐味、ご苦労、驚異記などを）

また、そのような達人（同窓）を知ってましたら事務局へご報ください。

**要項**

・原稿は、タイトル、卒年、氏名、本文を適当な用紙に書いて送ってください。
・本文の字数は、写真や図表ありの場合は400字以内、なしの場合は550字以内。
・送付先は同窓会事務局へ
・締めぐりは27年4月末日

## 編集後記

昨年度から寄稿される OB の皆様に、原稿の字数を390～480字ということでお願いしております。それは、字数が多いと会報の字が余りにも小さく、読む気にさえならないという会員の声から厳しく制限を加えました。今回は寄稿された皆さんが字数を守っていただいたおかげで、編集作業がスムーズに行われました。寄稿された同窓各位に感謝すると共に、お礼申し上げます。

（鈴木　実）

編集委員（鈴木、山岸、遠藤、岩瀬、斎藤、藤倉、篠原、瀬山、齋五澤、細堀）

発行　群馬県立館林高等学校同窓会
〒374-0041 群馬県館林市富士原町二三四一
☎0276(72)0437　FAX0276(72)0710